

経済レポート

グラフで見る関西経済(2016年8月)

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

【今月の景気判断】

関西経済は横ばい圏で推移している。生産は、振幅はあるものの、均してみると14年初め以降横ばい圏で推移している。実質輸出も、生産同様、均してみると横ばい圏で推移している。雇用環境をみると、有効求人倍率が小幅上昇、就業者数が増加するなど緩やかに持ち直している。賃金は月毎の変動はあるものの、総じて横ばい圏で推移している。個人消費は横ばい圏で推移しているが、百貨店販売など一部に弱い動きがみられる。住宅着工は、持ち直しが一服している。設備投資は、持ち直しの動きが一服している。公共投資は、横ばい圏で推移している。先行きについては、海外経済が緩やかな回復基調をたどる中、輸出、生産など企業部門の動きは概ね横ばいが続くと思込まれる。個人消費や住宅投資など家計部門も横ばいが見込まれ、関西経済は横ばい圏での推移が続くだろう。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	→		→
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資	→		→	生産	→		→
設備投資	→		→	雇用	↗		→
公共投資	→		→	賃金	→		→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャド一部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～イギリスのEU離脱問題の行方、中国等新興国経済の動向。米国の金融政策
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向。インバウンド消費の先行き
- ・政策～消費増税先延ばしの財政への影響、マイナス金利導入の影響と金融政策の総括
- ・家計～賃金の改善状況と家計の消費行動への影響。資産価格変動の影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る関西経済」の見方】参照

【各項目のヘッドライン】

項目	7月のコメント	8月のコメント	ページ
1. 景気全般	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	3~4
2. 生産	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	5~7
3. 雇用	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	8~9
4. 賃金	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	9~10
5. 個人消費	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	11~13
6. 住宅投資	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している	13~14
7. 設備投資	持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している	14~16
8. 公共投資	増加が一服している	横ばい圏で推移している	16~17
9. 輸出入	輸出、輸入ともに横ばい	輸出、輸入ともに横ばい	18~19
10. 物価	横ばい圏で推移している	緩やかに低下	19
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	20
12. 倒産	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに減少	20

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料:「グラフでみる景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】
3. 雇用

6月の近畿の完全失業率は前年差 - 0.2%ポイントの3.7%と2ヶ月連続で前年を下回り、就業者数は同22万人の増加となった。また、6月の近畿圏の有効求人倍率は前月差 + 0.01ポイントの1.28倍と5ヶ月連続で上昇した。

8. 公共投資

7月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比 + 30.1%の1,751億円と3ヶ月ぶりに増加した。

10. 物価

6月の近畿圏の消費者物価(生鮮食品を除く総合)は前年比 - 0.3%と2ヶ月連続で低下した。

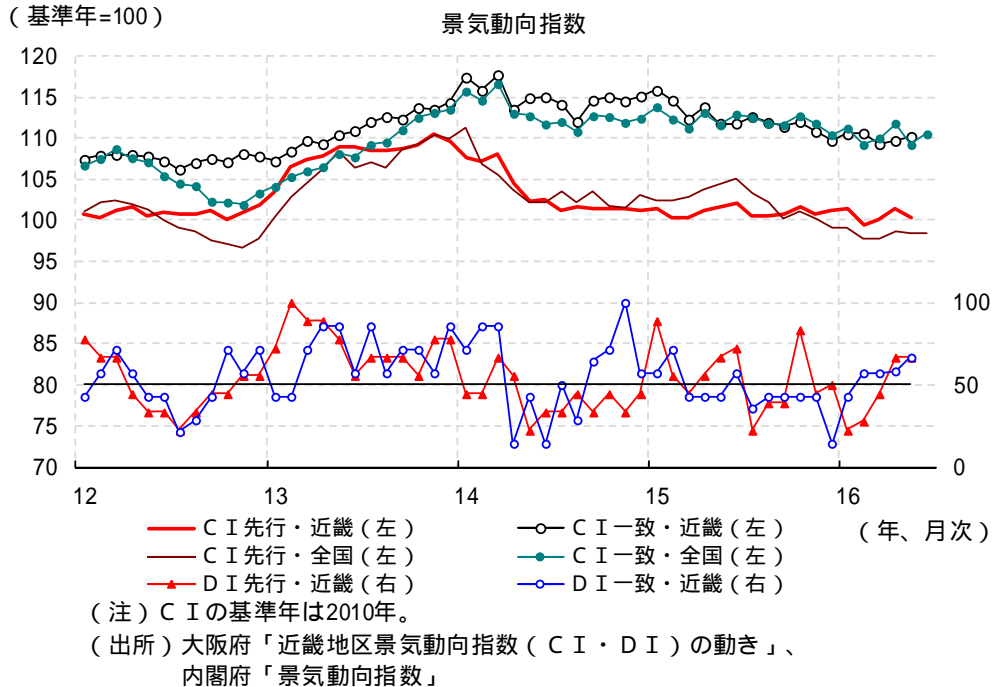
【主要経済指標の推移】

経済指標		15	15	15	16	16	16	16	16	16	16	
		4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	2	3	4	5	6	7
景気全般	景気動向指数(近畿)CI先行指数(05年=100)	101.7	100.6	101.2	100.3		99.5	100.1	101.5	100.3		
	CI一致指数(〃)	112.5	112.0	110.8	110.1		110.6	109.3	109.7	110.2		
	DI先行指数(%ポイント)	64.8	33.3	59.3	31.5		27.8	44.4	66.7	66.7		
	DI一致指数(〃)	47.6	40.5	33.3	52.4		57.1	57.1	58.3	66.7		
	景気ウォッチャー調査(近畿)現状判断DI(〃)	53.8	51.4	48.6	45.7	42.4	45.9	44.0	44.1	43.1	40.1	46.9
	先行判断DI(〃)	54.7	49.9	49.5	47.5	44.8	48.0	46.5	46.7	46.6	41.1	46.1
	日銀短観(近畿)業況判断DI 製造業(%ポイント)	4	4	4	-3	-2	-3	<9月予想>				
	非製造業(〃)	10	11	11	8	4	-1	<9月予想>				
	法人企業統計(近畿)経常利益 製造業(兆円)	1.0	0.6	0.8	0.5							
	非製造業(兆円)	0.8	0.5	0.5	0.5							
生産	鉱工業生産(近畿)(季節調整済、前期比・前月比)	-4.0	-0.4	-0.7	0.6	0.6	-6.1	7.5	-0.9	-0.8	-2.0	
	鉱工業出荷(近畿)(〃)	-3.5	-0.2	-1.1	-0.1	1.5	-4.9	5.9	0.3	-0.6	-1.9	
	鉱工業在庫(近畿)(〃)	0.4	0.3	-0.1	1.1	2.1	0.6	0.5	0.8	1.4	-0.2	
	鉱工業生産(近畿)鉄鋼(〃)	-3.7	-2.9	-0.8	1.1	-0.7	-3.0	2.2	-1.3	1.3	-2.0	
	金属製品(〃)	-5.8	3.6	-4.9	17.2	-15.3	-21.2	31.3	-13.2	-13.1	-8.6	
	一般機械(〃)	-12.5	-2.0	-2.9	-0.9	8.7	-9.1	24.2	-3.1	7.3	-12.1	
	輸送機械(〃)	-2.5	-1.3	0.5	-4.7	0.1	-2.8	9.6	-2.2	-6.0	4.1	
	電気機械(〃)	-9.9	6.2	2.3	1.5	-2.9	-3.3	8.1	-10.8	1.4	10.8	
	化学(〃)	-1.5	1.6	1.9	-0.6	-0.3	0.9	0.4	-1.7	5.4	-7.9	
雇用	完全失業率(近畿)(%)	3.7	4.4	3.4	3.4	3.8	3.3	3.7	4.0	3.6	3.7	
	就業者数(近畿)(万人)	867	863	896	891	885	882	888	881	888	887	
	雇用者数(近畿)建設業(前年差、万人)	-2	-7	1	-1	-3						
	製造業(〃)	-6	-8	7	14	0						
	運輸業、郵便業(〃)	-4	1	1	-2	-4						
	卸売業、小売業(〃)	1	-3	10	4	1						
	医療、福祉(〃)	1	5	1	9	20						
	サービス業(医療、福祉以外)(〃)	-6	0	-5	-4	2						
有効求人倍率(近畿)(季節調整値、倍)	1.09	1.13	1.17	1.20	1.27	1.20	1.21	1.26	1.27	1.28		
新規求人倍率(近畿)(〃)	1.71	1.75	1.82	1.88	2.01	1.87	1.84	2.02	2.03	1.97		
賃金	現金給与総額(近畿)	-1.3	0.1	-0.7	0.4		0.5	1.2	0.3	0.0		
	所定内給与(近畿)	0.5	-0.2	-0.7	0.4		0.5	0.8	0.5	0.0		
	所定外給与(近畿)	0.5	0.0	-0.5	0.4		-0.1	2.4	3.4	-0.2		
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入(近畿)勤め先収入	5.8	6.9	4.3	2.9	-0.1	2.7	2.9	3.2	2.4	-3.6	
	定期収入	6.6	2.2	-1.3	-0.3	3.1	-1.2	-0.3	2.1	3.9	3.2	
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出(近畿)	1.5	-2.9	-0.8	-5.6	-6.2	-2.4	-12.8	0.1	-9.4	-9.7	
	大型小売店販売状況(近畿)百貨店+スーパー	4.9	2.3	0.5	-0.1	-2.2	1.3	-1.5	-1.1	-3.0	-2.6	
	コンビニエンス・ストア販売状況(近畿)	5.7	7.5	6.1	5.2	5.9	8.3	4.4	5.9	3.3	4.4	
	家電大型専門店販売額(近畿)	7.0	5.7	-0.8	-2.3	-1.7	-5.1	-6.9	-1.1	-4.8	0.8	
	新車登録台数(近畿)	-5.2	-5.4	-7.8	-6.2	-0.1	-7.9	-7.2	6.0	-0.4	-5.9	-3.3
	消費者態度指数(近畿、一般世帯)(原数値)	40.9	40.9	41.0	40.7		39.4	41.0	40.6	40.8	42.4	41.4
住宅投資	新設住宅着工戸数(近畿)(季節調整済年率換算、千戸)	141.9	132.5	132.3	148.3	148.8	154.7	148.4	154.3	144.7	147.4	
	(前年比、%)	0.1	-0.3	3.3	13.8	5.3	23.1	9.4	32.9	2.6	-11.5	
設備投資	法人企業統計季報(近畿)設備投資 製造業	-12.4	1.8	-5.8	-0.3							
	非製造業	-4.6	2.8	-1.6	-8.2							
	企業立地件数(近畿)(件)						16		15			
公共投資	公共工事請負額(近畿)	7.7	-14.7	-9.2	9.3	-2.7	24.3	12.0	6.2	-3.8	-13.7	30.1
輸出入	実質輸出(近畿)(季節調整済、10年=100)	101.8	101.7	101.8	104.0	105.1	104.0	102.6	105.0	101.8	108.4	105.1
	通関輸出(大阪税関)輸出総額	5.2	3.3	-6.5	-9.0		-3.4	-8.4	-8.9	-12.8	-7.3	-12.7
	実質輸入(近畿)(季節調整済、10年=100)	112.6	115.6	113.7	119.6	116.3	124.9	114.3	115.4	115.0	118.4	114.1
	通関輸入(大阪税関)輸入総額	-5.7	-4.0	-11.4	-14.6		-17.0	-11.4	-18.1	-12.7	-15.3	-25.4
物価	消費者物価指数(近畿)生鮮食品を除く総合	0.3	0.2	0.4	0.4	-33.0	0.4	0.2	0.0	-0.1	-0.3	
	食料及びエネルギーを除く総合	0.5	0.8	0.8	0.8	-32.9	0.9	0.8	0.6	0.5	0.3	
金融	国内銀行預金残高(近畿)	1.5	3.2	2.0	1.6	2.9	2.4	3.0	3.4	3.2	3.5	
	国内銀行貸出金残高(近畿)	1.1	0.0	0.6	0.1	0.5	0.3	0.5	0.7	0.8	1.2	
倒産	倒産件数(近畿)	-11.8	-13.3	-9.1	-5.6	-10.0	8.7	-21.6	-5.3	-20.5	-5.1	-24.1

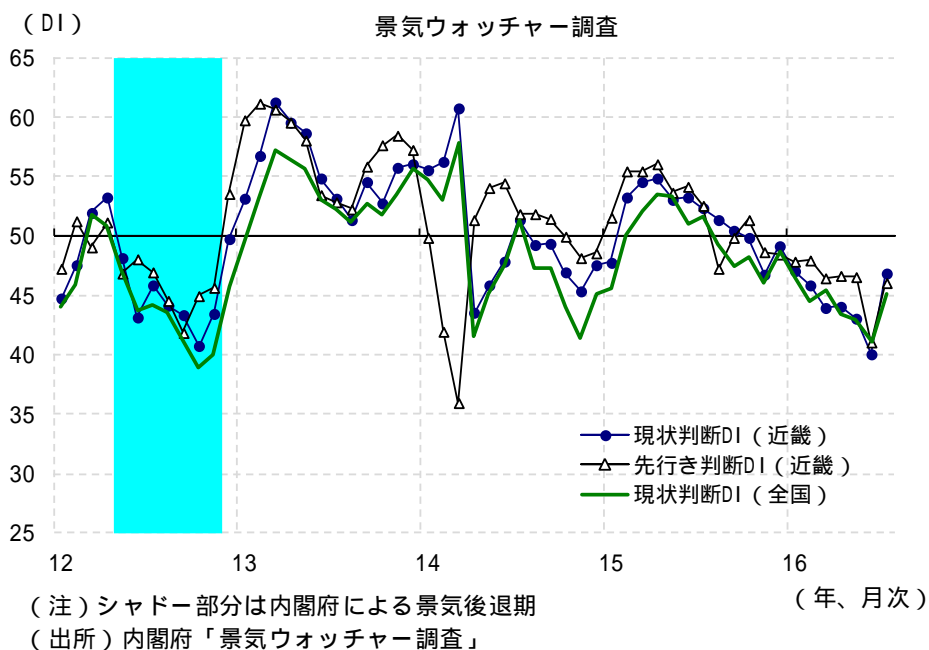
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 横ばい圏で推移している

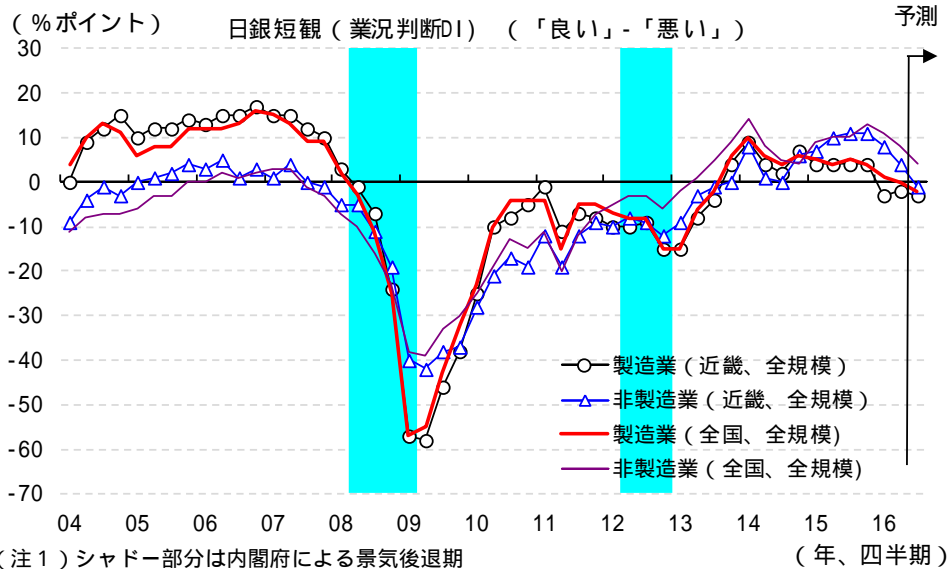
5月の近畿地区の景気動向指数・C I一致指数は前月差+0.5ポイントの110.2と2ヶ月連続で上昇した。採用7系列のうち鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、百貨店売場面積など5系列がマイナスに寄与した。一方、C I先行指数は同-1.2ポイントの100.3と3ヶ月ぶりに低下した。採用9系列のうち、鉱工業在庫指数、新設住宅着工戸数、乗用車新車販売台数、中小企業景況調査(業況DI)など5系列がマイナスに寄与した。



景気ウォッチャー調査によると、7月の近畿地区の現状判断D Iは前月差+6.8ポイントの46.9と3ヶ月ぶりに上昇したが、景気の横ばいを示す50を10ヶ月連続で下回った。家計動向関連の現状判断D Iは同+7.3ポイントの45.4と2ヶ月ぶりに上昇し、50を10ヶ月連続で下回った。先行き判断D Iは、英国のEU離脱問題による先行き懸念が落ち着き、同+5.0ポイントの46.1と上昇したが、50を9ヶ月連続で下回った。

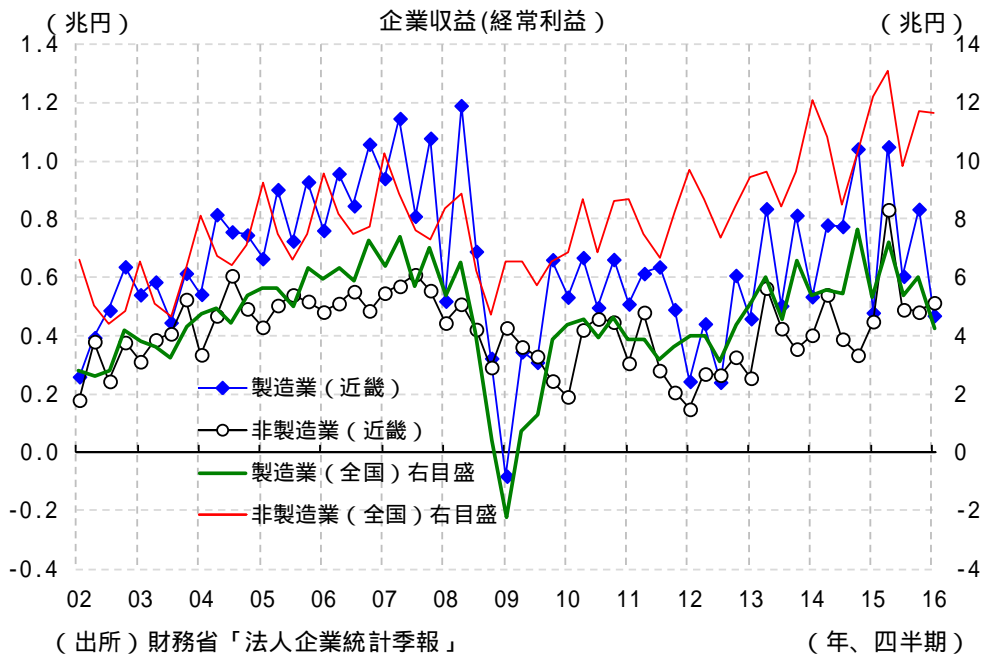


日銀短観6月調査によると、近畿地区の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は全産業(全規模)で+1と3月調査から2ポイント低下した。製造業(全規模)は-2と3月調査から1ポイント改善したが、非製造業(全規模)は+4と3月調査から4ポイント悪化した。規模別では大企業、中小企業はいずれも3月調査と同水準であったが、中堅企業は6ポイント悪化した。先行きについては全規模で悪化が見込まれている。



(注1) シャドー部分は内閣府による景気後退期
 (注2) 2004年3月調査、2007年3月調査、2010年3月調査、2015年3月調査時点で、調査対象企業の見直しが行われたため、前後の系列にギャップがある
 (出所) 日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査(近畿地区)」

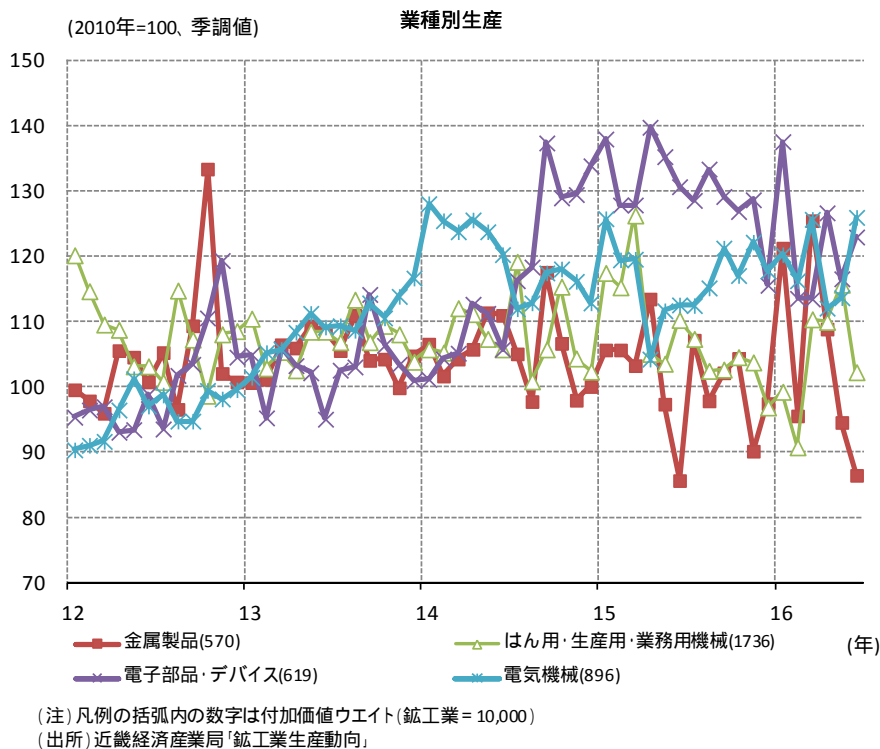
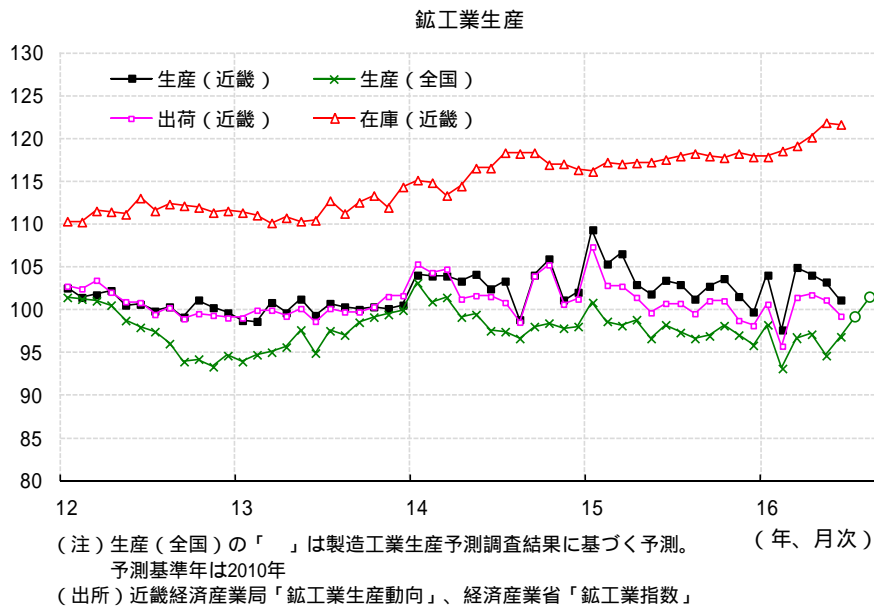
2016年1~3月期の近畿地区の大企業の経常利益(全産業)は、前年比+5.9%と三四半期ぶりに増加した。製造業は同-2.1%と三四半期連続で減少したが、非製造業は同+14.4%と5四半期連続で増加した。日銀短観6月調査では、15年度の経常利益(全産業)は同+16.4%の増益となり、前回3月調査から上方修正された。16年度は全産業で同-8.4%、製造業同-7.9%、非製造業同-9.2%と減益の見込みとなっている。

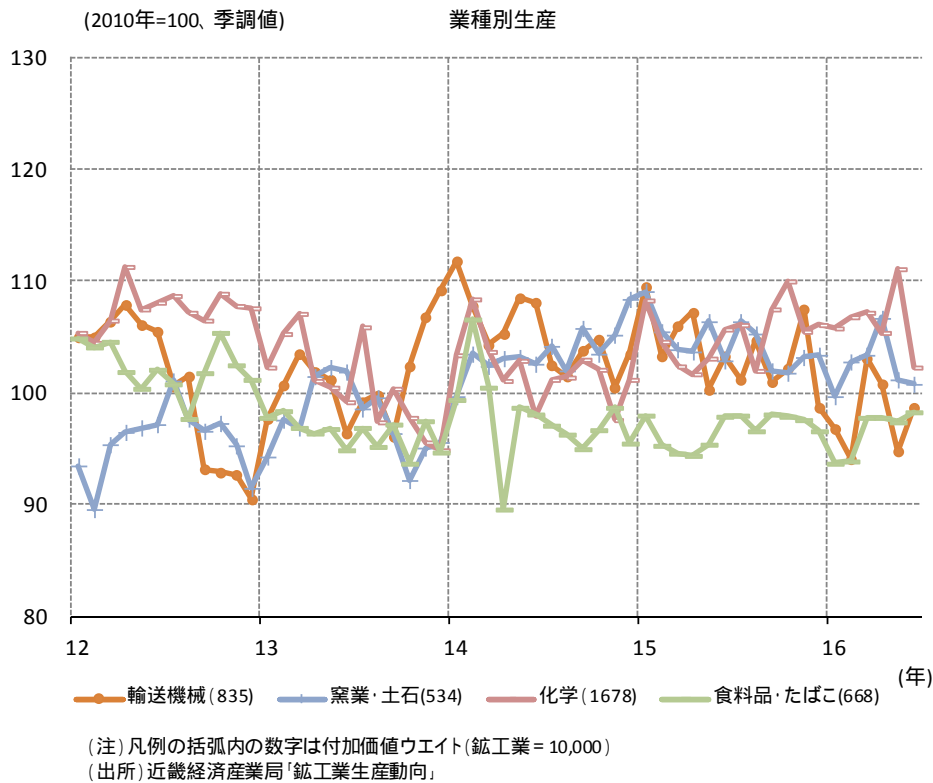


(出所) 財務省「法人企業統計季報」 (年、四半期)

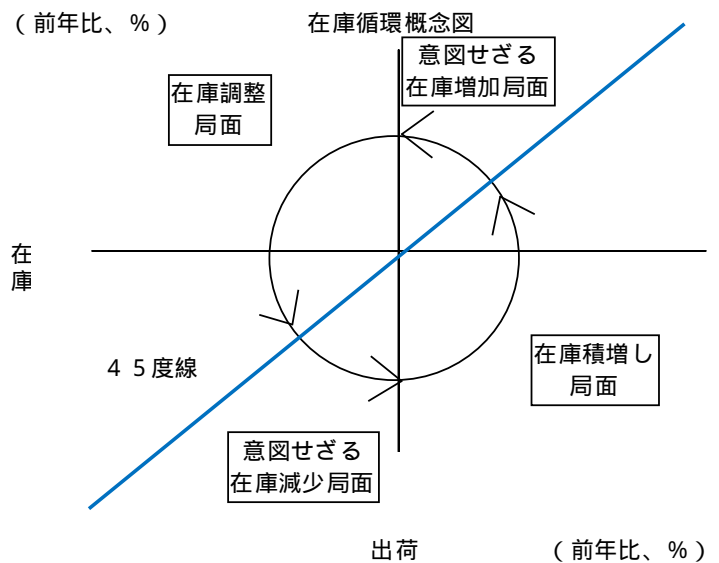
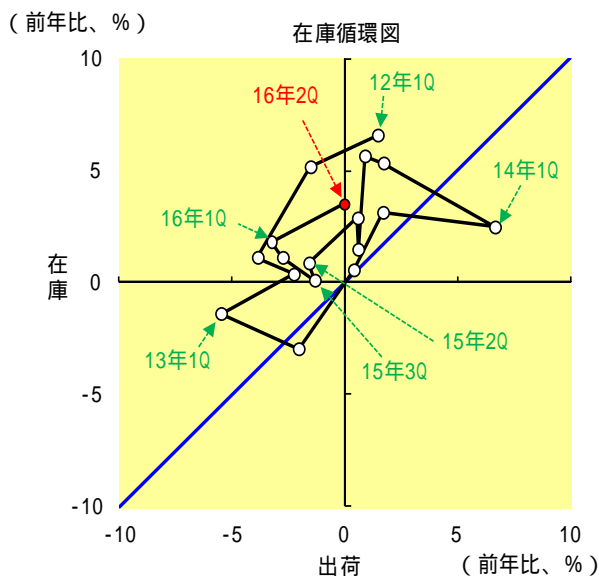
2. 生産 ~ 横ばい圏で推移している

6月の近畿地区の鋳工業生産(速報)は前月比-2.0%と3ヶ月連続で減少した。電気機械、電子部品・デバイスなどが増加したが、はん用・生産用・業務用機械、金属製品、化学(除く医薬品)などが減少した。近畿の生産は、上下に振れながらも均して見ると横ばい圏で推移している。世界経済の回復は緩やかであり、在庫も増加傾向にあるため、今後も生産は横ばい圏での推移が見込まれる。





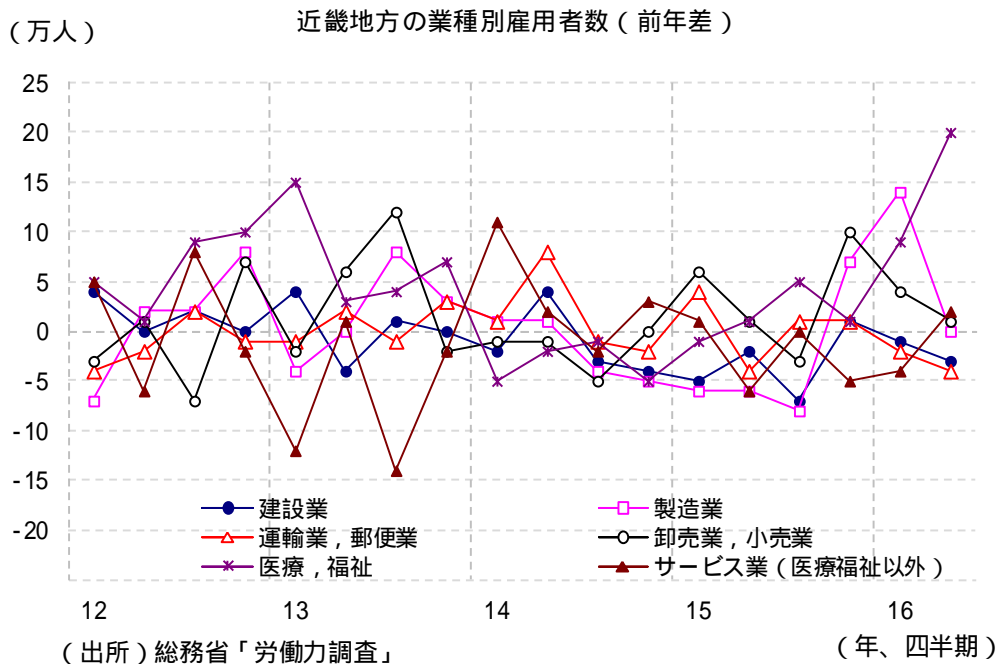
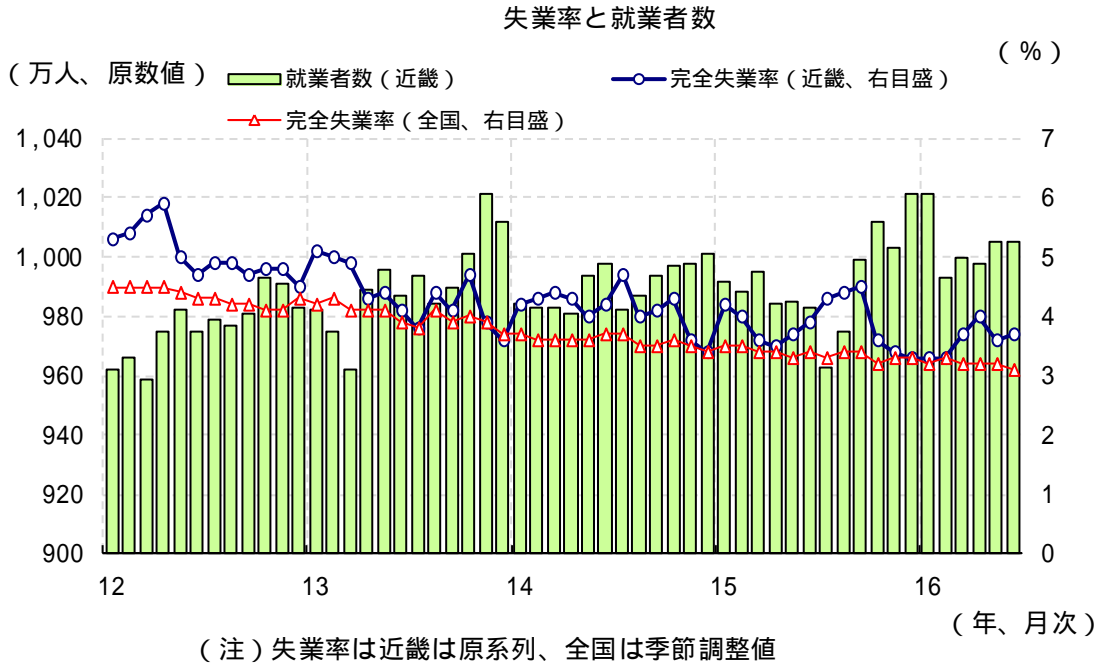
6月の近畿地区の鉱工業出荷(速報)は前月比-1.9%と2ヶ月連続で減少した。電子部品・デバイス、輸送機械(除く航空・鋼船・鉄道車両)などが増加したが、はん用・生産用・業務用機械、石油・石炭製品などが減少した。鉱工業在庫は同-0.2%と6ヶ月ぶりに減少した。電気機械、金属製品などが増加したが、はん用・生産用・業務用機械、輸送機械(除く航空・鋼船・鉄道車両)などが減少した。



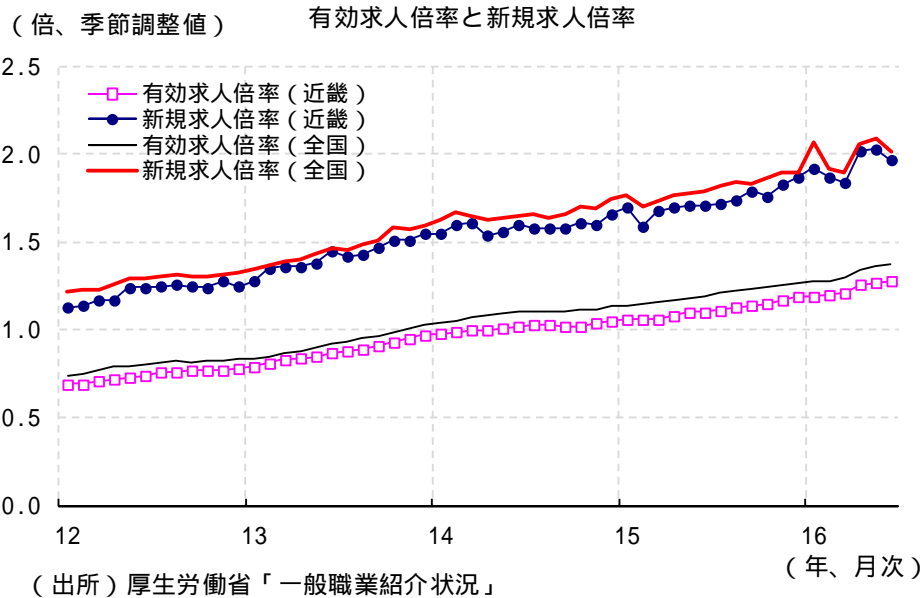
(注) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

3. 雇用 ~ 緩やかに持ち直している

6月の近畿の完全失業率は前年差 - 0.2%ポイントの3.7%と2ヶ月連続で前年を下回った。雇用者数は前年差23万人の増加、就業者数は同22万人の増加、完全失業者数は同2万人の減少となった。業種別(4~6月期)に雇用者数をみると、建設業、運輸業・郵便業などが減少する一方、医療・福祉、サービス業(医療・福祉以外)などが増加した。景気は横ばい圏で推移しており、今後は、持ち直しの動きは限定的となろう。

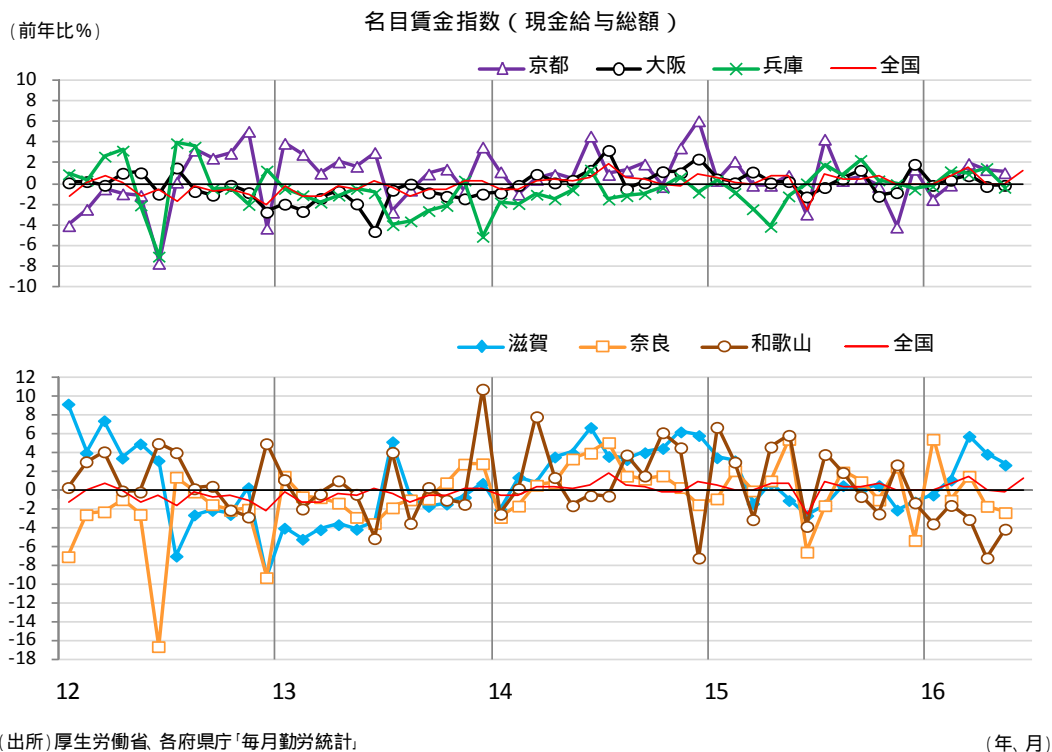


6月の近畿圏の有効求人倍率は前月差+0.01ポイントの1.28倍と5ヶ月連続で上昇した。有効求職者数は前月比-0.8%と4ヶ月連続で減少し、有効求人数が同+0.2%と3ヶ月連続で増加した。一方、有効求人倍率に先行する新規求人倍率は前月差-0.06ポイントの1.97倍と3ヶ月ぶりに低下した。新規求職申込件数は前月比-0.2%と2ヶ月ぶりに減少し、新規求人数は同-3.4%と3ヶ月ぶりに減少した。

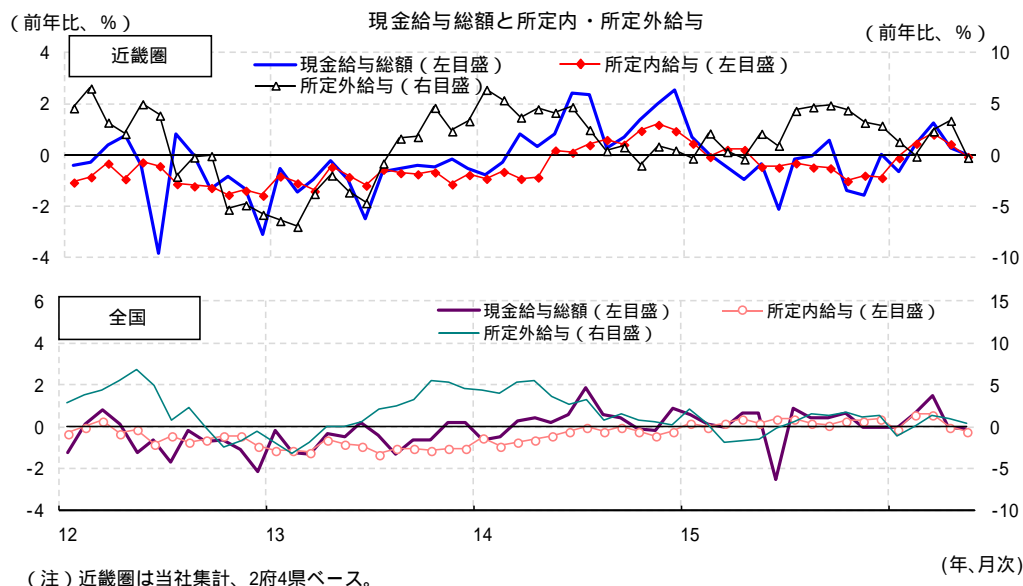


4. 賃金 ~ 横ばい圏で推移している

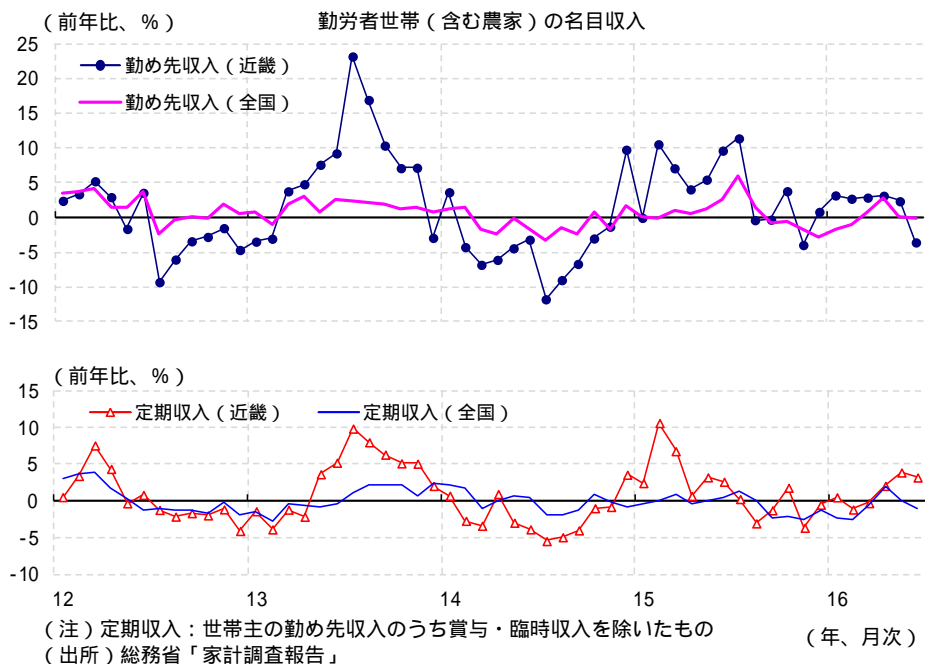
5月の近畿各県の名目賃金指数(現金給与総額)は、和歌山(前年比-4.1%)は6ヶ月連続で、奈良(同-2.3%)と大阪(同-0.1%)は2ヶ月連続で、兵庫(同-0.4%)は4ヶ月ぶりに、いずれも低下したが、京都(同+1.1%)は3ヶ月連続で上昇し、滋賀(同+2.8%)は4ヶ月連続で上昇した。今後については、横ばい圏での推移が続くと見込まれる。



5月の近畿圏の現金給与総額(加重平均)は26.4万円と前年とほぼ同水準となった。定期給与は同-0.1%と小幅ながら5ヶ月ぶりに減少した。内訳をみると所定内給与は前年とほぼ同水準となり、所定外給与は同-0.2%と3ヶ月ぶりに減少した。

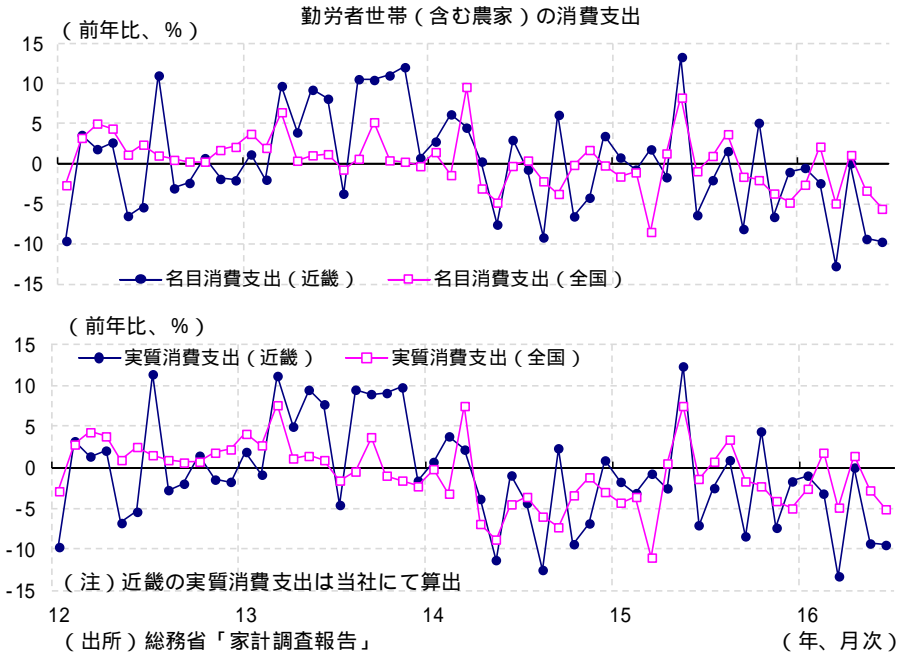


家計調査によると、6月の近畿圏の勤労者世帯(含む農家)の勤め先収入は前年比-3.6%の63.6万円と7ヶ月ぶりに減少した。また、世帯主の勤め先収入は前年比-1.2%の58.0万円と3ヶ月ぶりに減少した。世帯主の勤め先収入の内訳をみると、賞与・臨時収入を除いた定期収入は同+3.2%の36.4万円と3ヶ月連続で増加した。

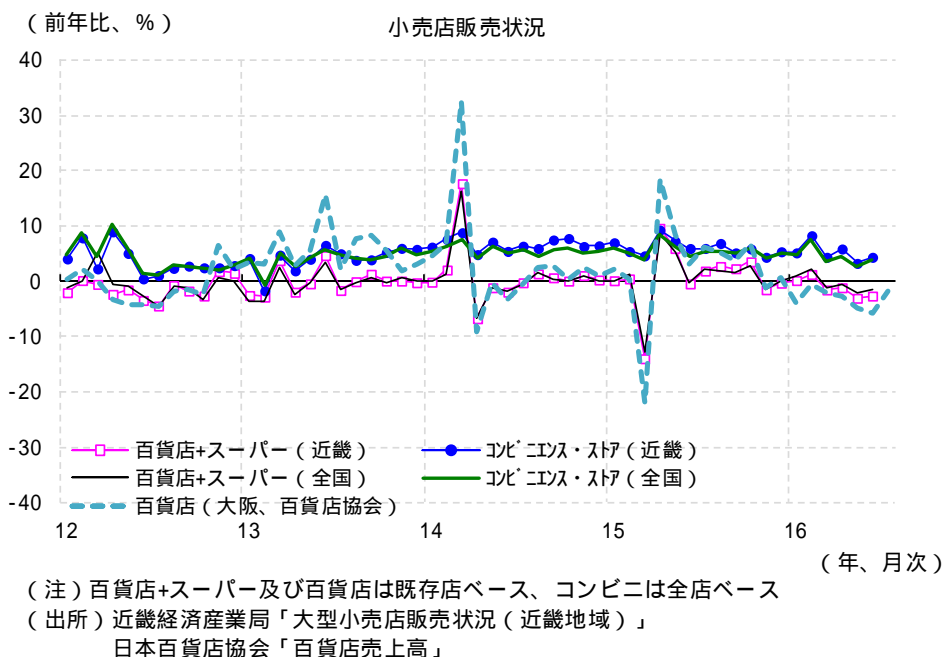


5. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き

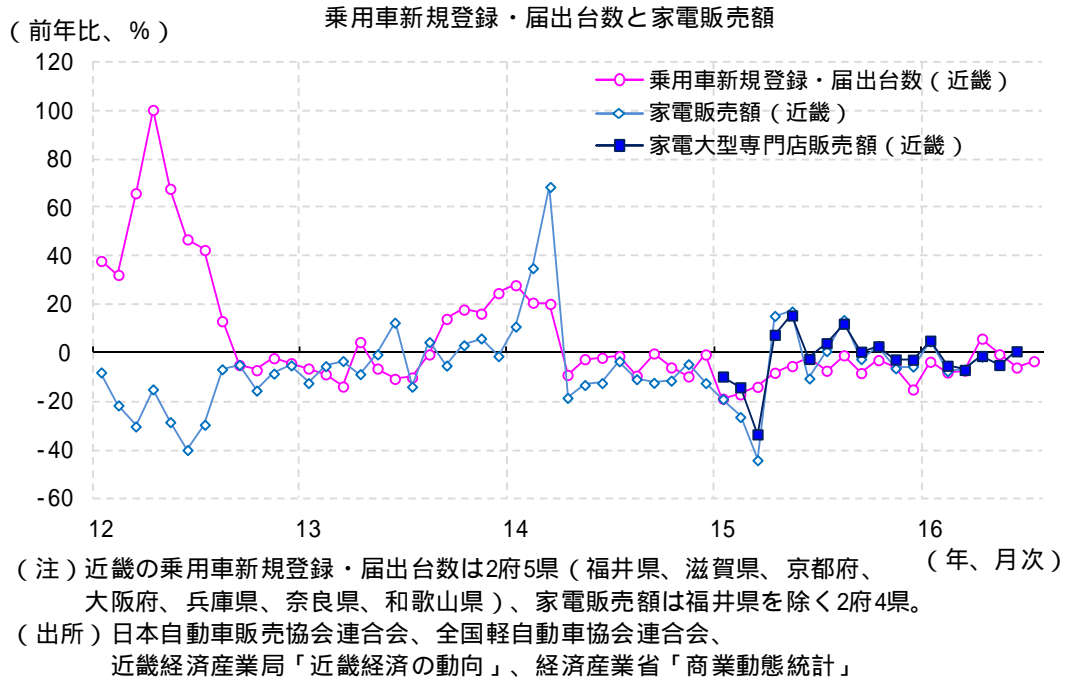
家計調査によると、6月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比 - 9.7%と2ヶ月連続で減少、物価の上昇分を除いた実質では同 - 9.5%と8ヶ月連続で減少した。関西の個人消費は均してみると、横ばい圏で推移しているものの一部に弱い動きがみられる。今後も、実質所得の持ち直しが限定的となる中、横ばい圏での推移が続くと見込まれる。



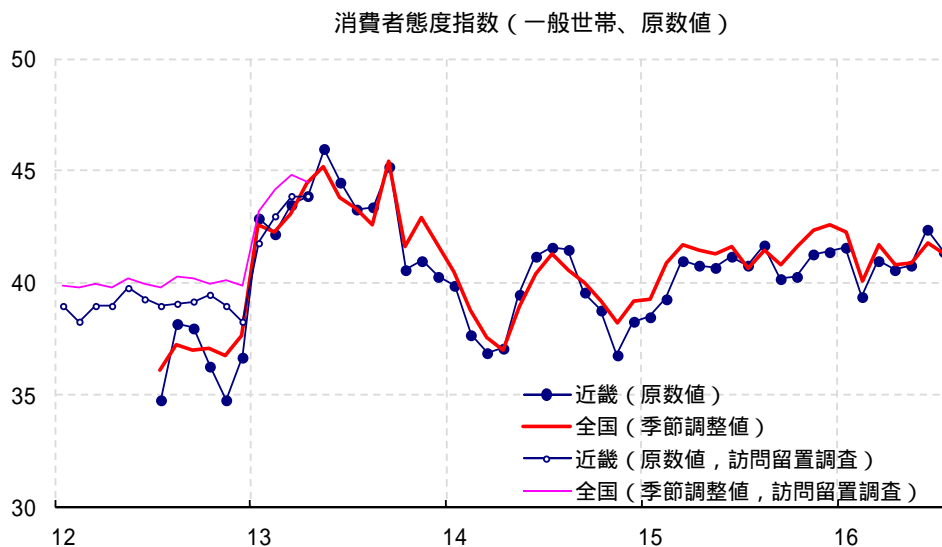
6月の近畿地区の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額は、既存店で前年比 - 2.6%と4ヶ月連続で減少、全店では同 - 1.5%と4ヶ月連続で減少した。コンビニエンス・ストアの販売額（全店）は同 + 4.4%と40ヶ月連続で増加した。7月の大阪の百貨店売上高（百貨店協会）は、休日が前年より2日多かったものの、大丸心斎橋店本館立て替えによる売り場面積の減少もあって、同 - 1.7%（店舗調整後）と7ヶ月連続で減少した。



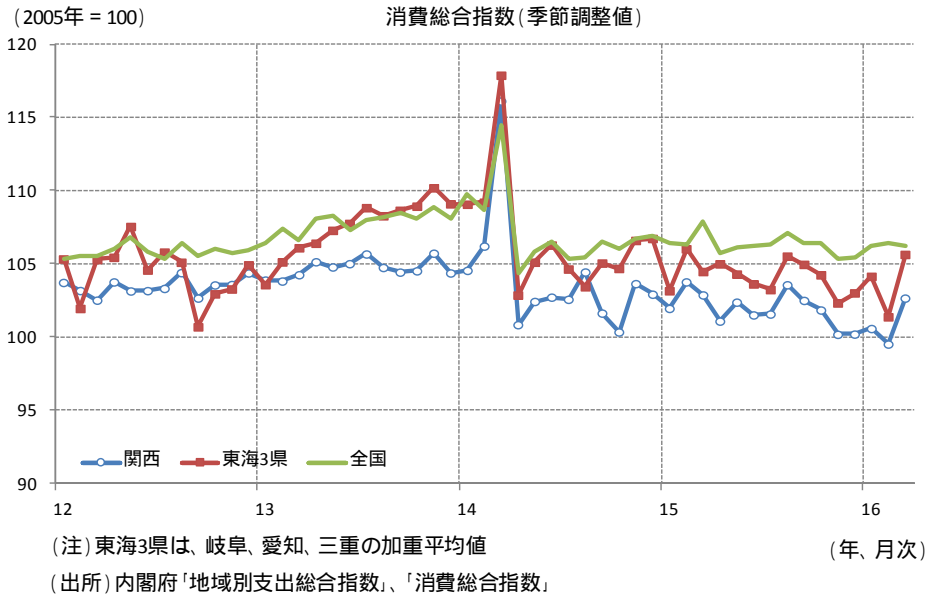
7月の近畿地区の乗用車新規登録・届出台数は前年比 - 3.3%と3ヶ月連続で減少した。普通車は前年とほぼ同水準となったが、軽自動車は19ヶ月連続で、小型車は3ヶ月連続で前年を下回った。府県別では、滋賀県を除く2府4県で減少した。一方、6月の近畿地区の家電大型専門店販売額は、前年比 + 0.8%と5ヶ月ぶりに増加した。



消費者マインドを表す消費者態度指数(近畿、一般世帯、原数値)は、7月は前月差 - 1.0ポイントの41.4と3ヶ月ぶりに低下した。近畿の消費者マインドは、均してみると横ばい圏で推移している。今後については、内外景気の先行き不透明感が続くことから、横ばい圏での推移が見込まれる。

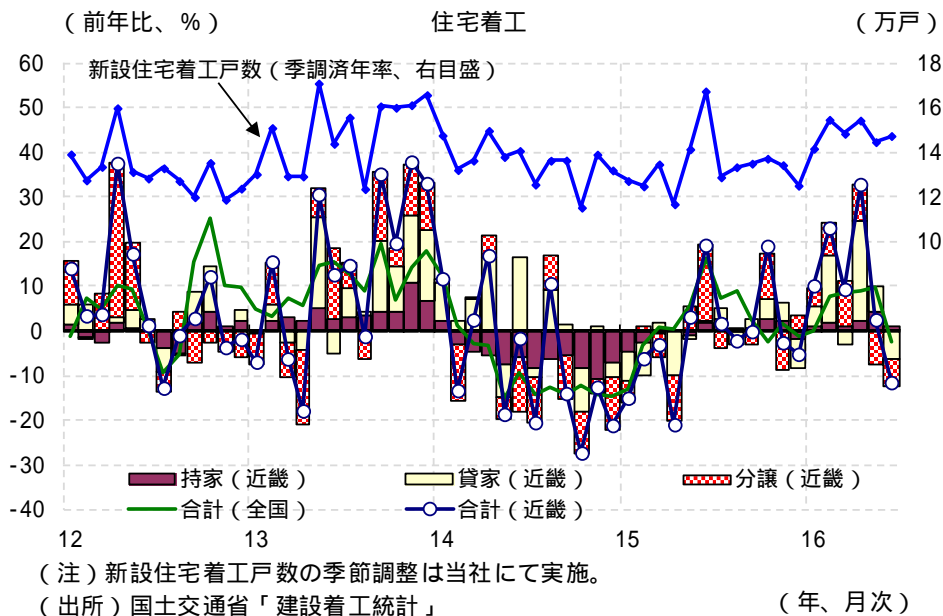


内閣府が5月に公表した地域別消費総合指数によると、関西のサービス消費を含む個人消費の動向は、14年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げた横ばい圏で推移している。

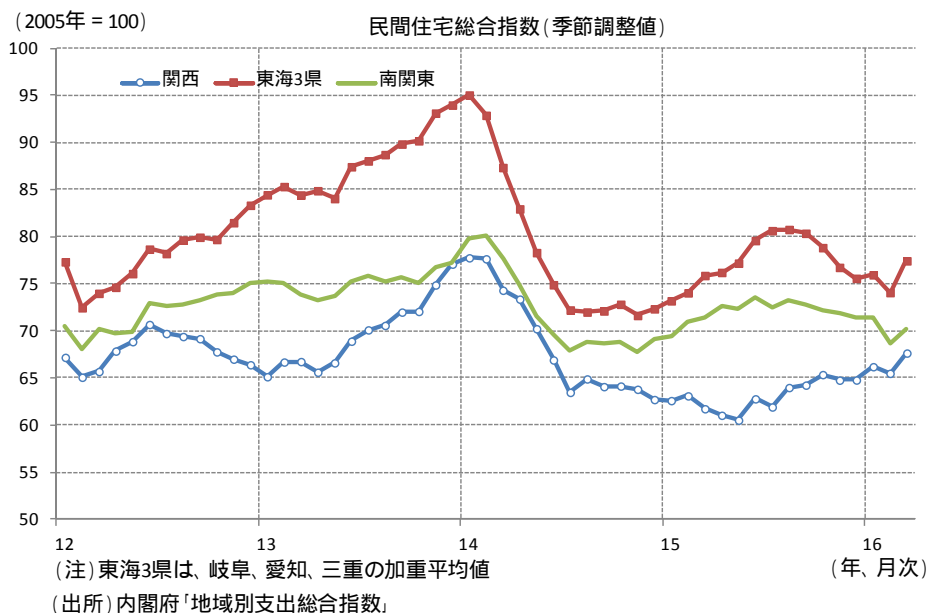


6. 住宅投資 ~ 持ち直しが一服している

6月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比 - 11.5%の12,681戸と6ヶ月ぶりに減少した。持家は6ヶ月連続で増加したが、貸家は3ヶ月ぶりに減少し、分譲は2ヶ月連続で減少した。季調済戸数は年率14.7万戸と2ヶ月ぶりに増加した。近畿の住宅着工は、相続税対策や低金利の影響もあって、16年に入って持ち直した後、足下で横ばい圏となっている。先行きについては、消費税率引き上げ延期の影響もあり、弱含む可能性がある。

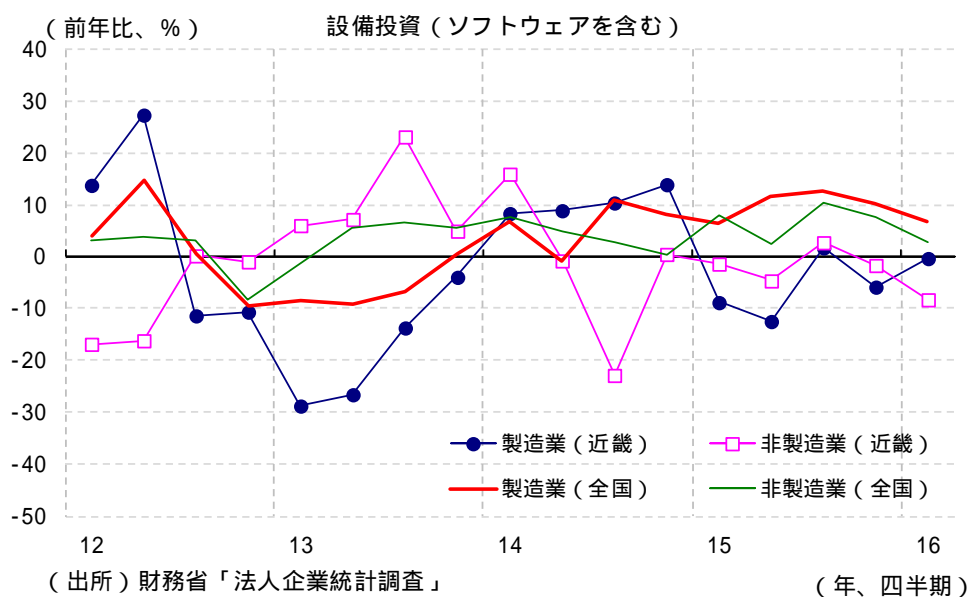


内閣府が5月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、関西の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、14年1月をピークに急速に低下したが、14年7月以降は低下ペースが緩やかとなった。その後、15年半ば以降は上昇基調に転じ、持ち直しの動きがみられる。

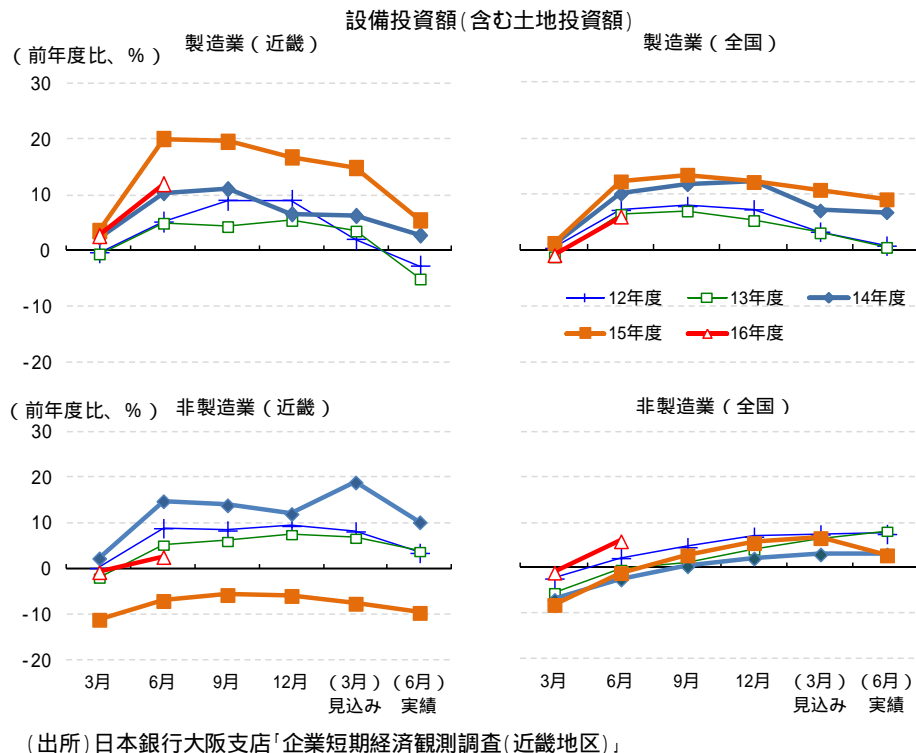


7. 設備投資 ~ 持ち直しの動きが一服している

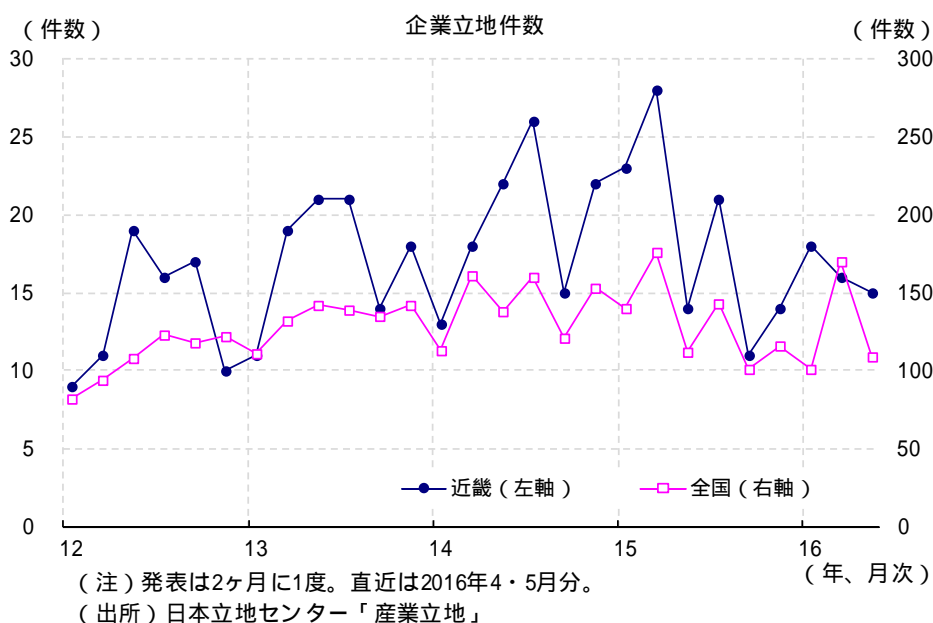
2016年1~3月期の関西の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は前年同期比 - 5.2%と2四半期連続で減少した。内訳をみると、製造業が同 - 0.3%、非製造業が同 - 8.2%といずれも2四半期連続で減少した。



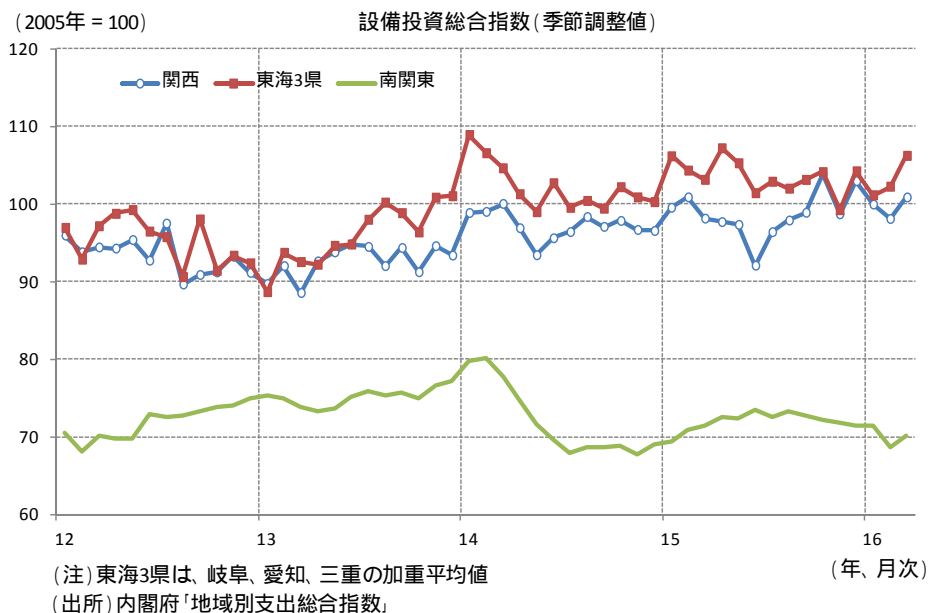
日銀短観6月調査によると、関西の15年度の設備投資実績額は、製造業は同+5.5%と増加したが、非製造業は同-9.5%と減少、全産業でも前年比-4.0%と減少した。16年度は、製造業同+12.0%、非製造業同+2.7%、全産業同+6.4%といずれも増加を見込むが、製造業の伸びは、前年6月調査時の15年度計画(同+20.1%)に比べて控えめの計画となっている。



近畿地区の2016年4・5月の企業立地件数は15件と、前期(2・3月; 16件)から減少、前年同期(14件)と比べて小幅増加した。近畿地区の企業立地は全国と同様に15年度前半は減少傾向で推移していたが、15年度後半以降は下げ止まりの動きがみられる。

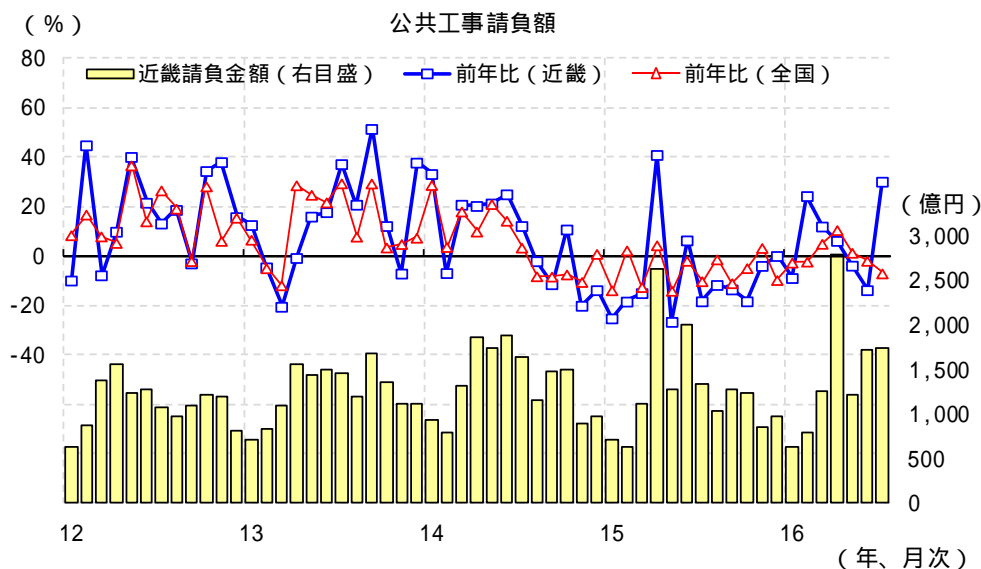


内閣府が5月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、関西の民間企業設備投資は、14年は均してみると横ばい圏で推移した。15年に入って以降は弱含みとなっていたが、中頃から持ち直しの動きがみられる。

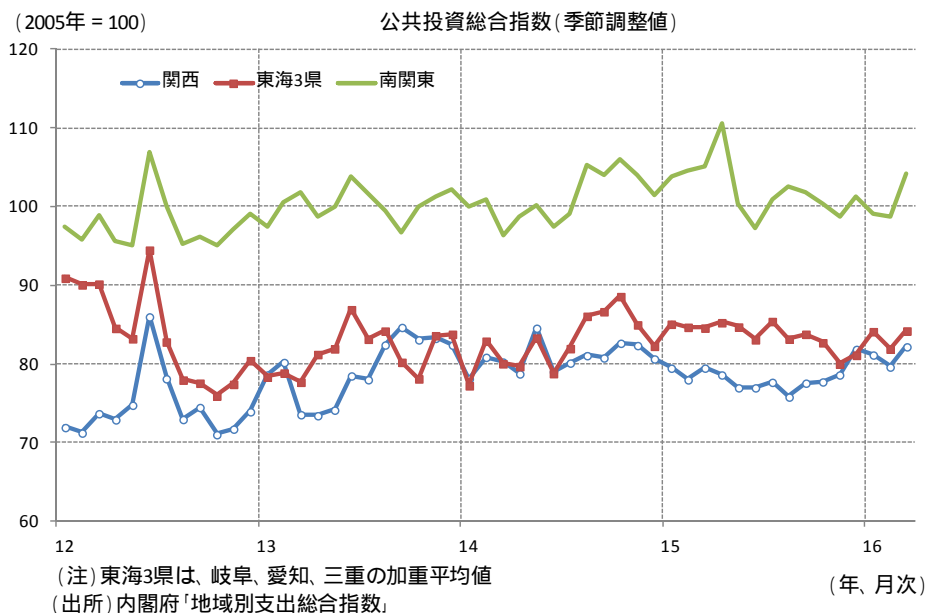


8. 公共投資 ~ 横ばい圏で推移している

7月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比+30.1%の1,751億円と3ヶ月ぶりに増加した。府県別では、滋賀、京都、兵庫、奈良は減少したが、大阪、和歌山は増加した。発注者別では、国、都道府県、市区町村が減少したが、独立行政法人、地方公社は増加した。公共工事請負額は、2015年度補正予算の執行や16年度予算の前倒し執行などにより一時的に増加した後、横ばい圏で推移している。目先は横ばい圏での推移が見込まれる。

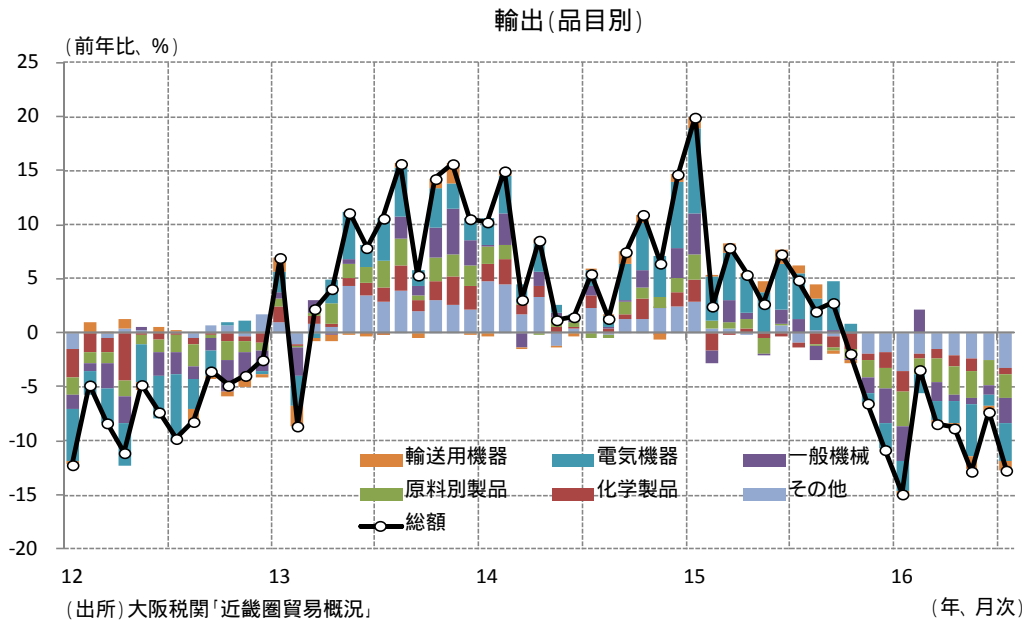
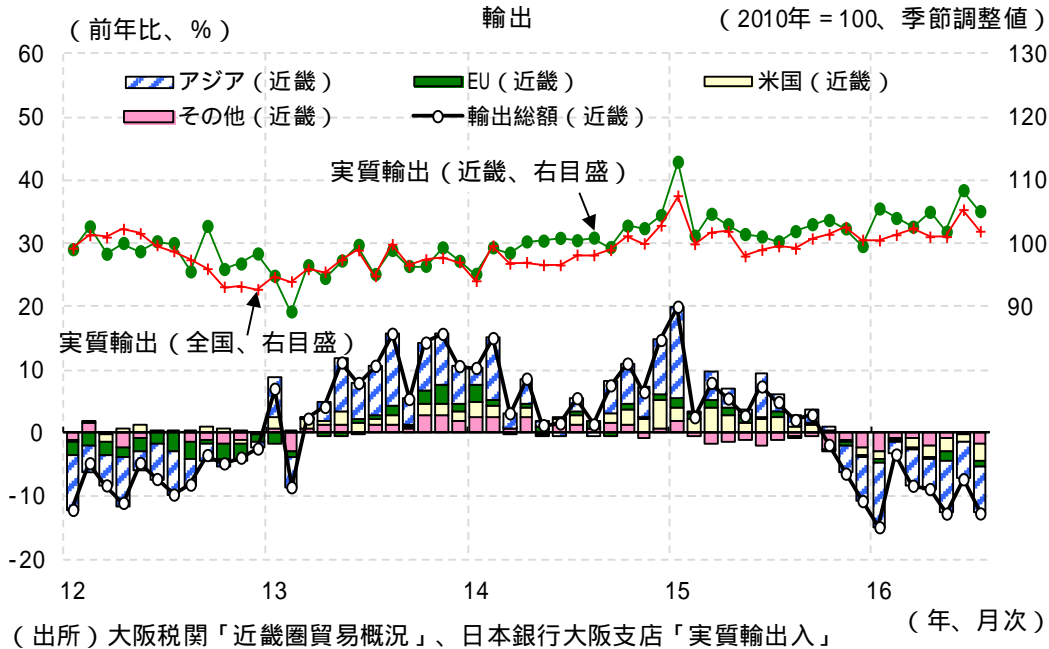


内閣府が5月に公表した地域別公共投資総合指数によると、関西の工事進捗ベースでの公共投資は、15年に入って以降やや弱含んでいたが、15年9月以降は持ち直しの動きがみられる。

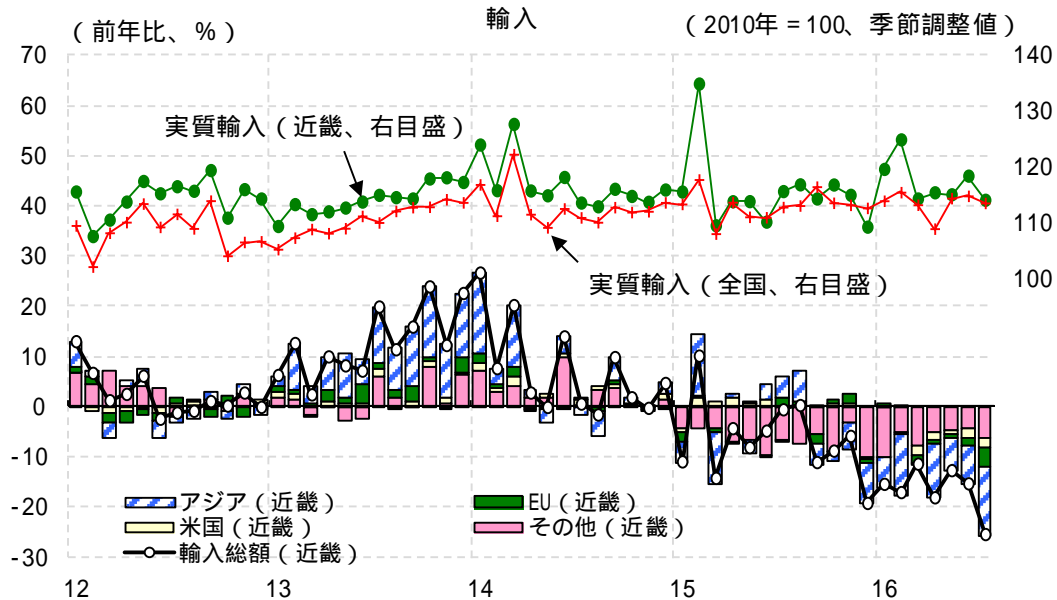


9. 輸出入 ~ 輸出、輸入ともに横ばい

7月の近畿地区の実質輸出は前月比 - 3.1%と2ヶ月ぶりの減少となったが、横ばい圏での推移が続いている。一方、7月の名目輸出額(速報)は前年比 - 12.7%と10ヶ月連続で減少した。地域別では、アジア、米国、EUいずれも減少した。品目別では電池、医薬品などが増加したが、鉄鋼、科学光学機器などが減少した。今後については、海外経済の回復が緩やかなものにとどまる中、横ばい圏での推移が見込まれる。



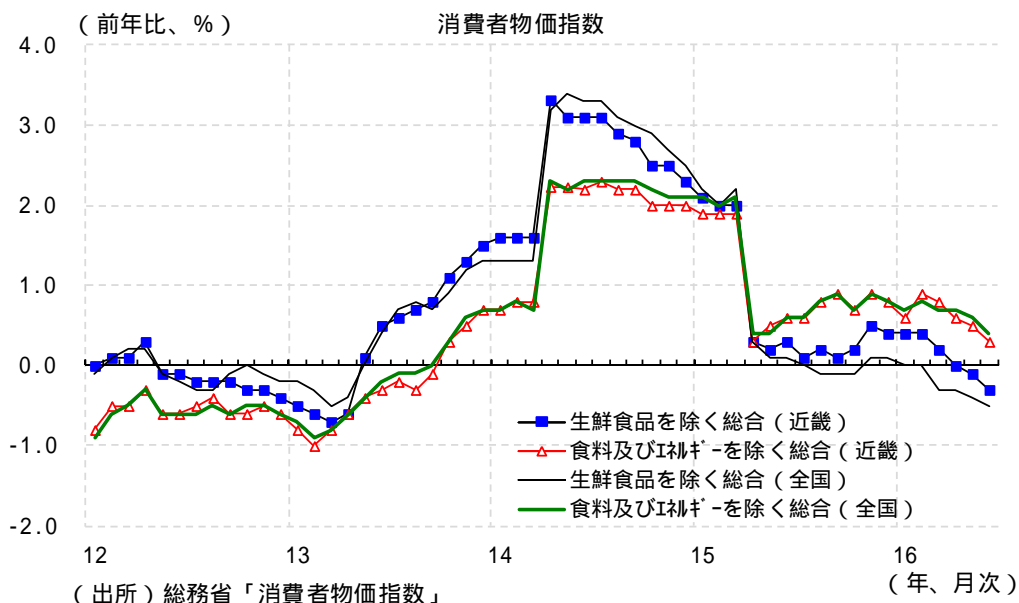
7月の近畿地区の実質輸入は、前月比 - 3.7%と2ヶ月ぶりの減少となったが、均してみると横ばい圏での推移が続いている。一方、7月の名目輸入額（速報）は前年比 - 25.4%と11ヶ月連続で減少した。地域別では、アジア、米国、EU、中東のいずれも減少した。品目別では、医薬品、自動車などが増加したが、原油及び粗油、有機化合物などが減少した。今後も、国内需要動向を反映し横ばい圏の推移が見込まれる。



(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」、日本銀行大阪支店「実質輸出入」 (年、月次)

10. 物価 ~ 緩やかに低下

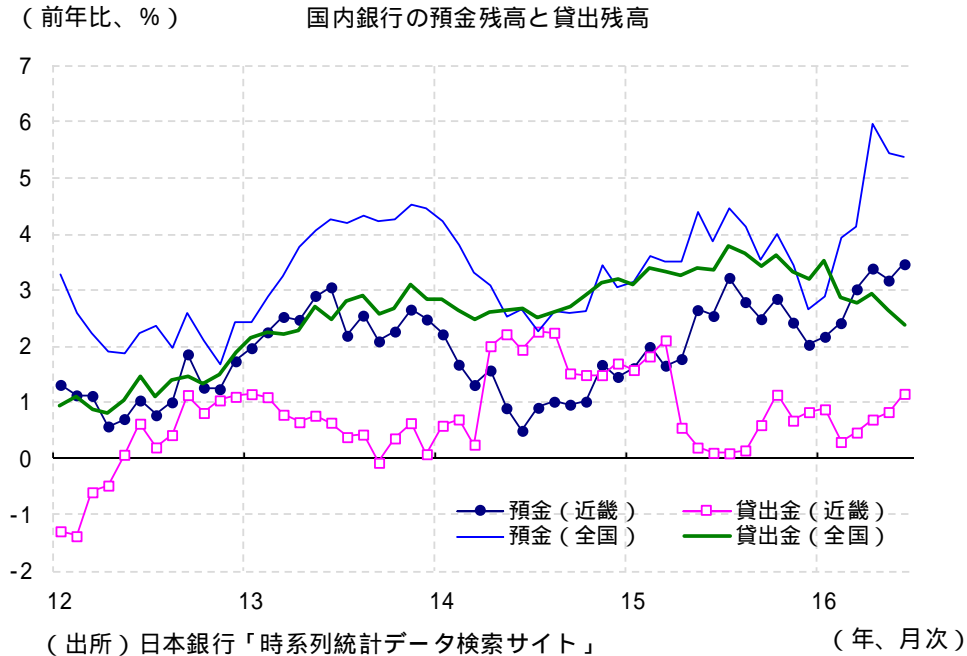
6月の近畿圏の消費者物価は、生鮮食品を除く総合は前年比 - 0.3%と2ヶ月連続で低下した。食料品価格は上昇しているものの、エネルギー価格は下落している。食料・エネルギーを除く総合では同+0.3%と33ヶ月連続で上昇しているが、上昇率は緩やかである。今後については、エネルギー価格の下落や円高による輸入物価下落が物価低下圧力として働くため、物価はマイナス圏での推移が見込まれる。



(出所) 総務省「消費者物価指数」

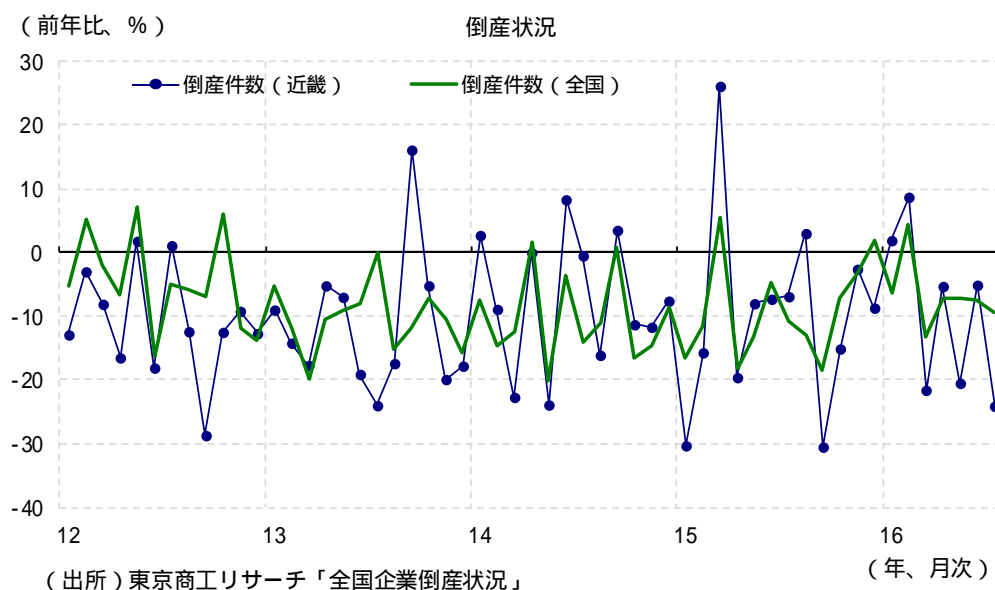
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

6月の近畿地区の預金残高(国内銀行ベース)は、前年比+3.5%の111.9兆円となった。定期性預金は前年比で減少が続いているが、要求払預金が増加している。また、近畿地区の6月の貸出残高(国内銀行ベース)は、同+1.2%の60.3兆円と増加した。日銀大阪支店では、企業向けや住宅ローンの増加等が貸出の増加要因とみている。



12. 倒産 ~ 倒産件数、負債総額ともに減少

7月の近畿地区の倒産件数は、前年比-24.1%の154件と5ヶ月連続で減少し、低い水準で推移している。府県別にみると、京都は増加したが、滋賀、大阪、兵庫、奈良、和歌山は減少した。また、倒産企業の負債総額は、同-28.1%の157億円と2ヶ月ぶりに減少した。府県別では、2府4県のいずれもが減少した。



【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前~	現況	~3ヶ月後			3ヶ月前~	現況	~3ヶ月後
景気全般	全国	→		→	全国	→		→	
	東海	→		→	輸出	東海	→		→
	関西	→		→	関西	→		→	
個人消費	全国	→		↗	全国	→		→	
	東海	→		→	輸入	東海	→		→
	関西	→		→	関西	→		→	
住宅投資	全国	↗		↘	全国	→		→	
	東海	→		→	生産	東海	↗		→
	関西	→		→	関西	→		→	
設備投資	全国	→		↗	全国	↗		→	
	東海	→		→	雇用	東海	→		→
	関西	→		→	関西	↗		→	
公共投資	全国	→		↗	全国	→		→	
	東海	↘		→	賃金	東海	→		→
	関西	→		→	関西	→		→	



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

(注) 1. 3ヶ月前~、~3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

3. 全国は8月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		7月のコメント	8月のコメント
1. 景気全般	全国	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
2. 生産	全国	弱含んでいる	下げ止まっている
	東海	弱含んでいる	下げ止まっている
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	持ち直している	持ち直しが一服
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
5. 個人消費	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
	関西	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
6. 住宅投資	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している
7. 設備投資	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	増加が一服している	増加が一服している
	関西	持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している
8. 公共投資	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	横ばい圏で推移している	弱含んでいる
	関西	増加が一服している	横ばい圏で推移している
9. 輸出入	全国	輸出、輸入とも横ばい圏で推移している	輸出、輸入とも横ばい圏で推移している
	東海	輸出、輸入ともに弱含み	輸出、輸入ともに横ばい
	関西	輸出、輸入ともに横ばい	輸出、輸入ともに横ばい
10. 物価	全国	企業物価は下落、消費者物価は小幅下落	企業物価、消費者物価とも下落
	東海	低下している	低下している
	関西	横ばい圏で推移している	緩やかに低下
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は減少、負債総額は増加
	関西	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに減少

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る関西経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国(グラフで見る景気予報)と関西地区(グラフで見る関西経済)の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。